愛

1962 創刊号

今月のことば　「キリスト様のみことば」

われは地上に火と放たんとて来れり
その燃ゆる外には何をか望まん　（ルカ十二の四九）

キリスト様の唯一の望は人びとの心に愛の火をもえ立たせることです。
私どももキリスト様と心を同じうして世の中にこの愛の火をもえたたせましょう。

表紙について

すべての人は愛にうえかわいております。
イエズス様への道である聖母マリア様は私どもに向っておっしゃるのです「子どもたちよ、人びとへの愛にうえかわくイエズス様のみこころをごらんなさい。あなたの心が求めている幸福をここから豊かにお汲みとりなさい」と。
白百合は冥徳とははなされない貞潔の徳をあらわします。イエズス様の聖心から愛と貞潔の徳をいただきましょう。

目次

表紙題字……山口長崎大司教
創刊の言葉……中山　和子…1
愛は死よりも強し……長井　恵子…3
貞潔は女性より……岩渕水玲子…4
愛から愛へ……川口　道子…5
精神薄弱児施設「みかさえの園」
一年の歩み……シスター今西…6

創刊の言葉

会長　中山和子

この度、山口長崎大司教様の御承認と御祝福の下に、けがれなき聖母の騎士修道女会におきまして「愛」誌を発刊いたすこととなりました。

私どもの会の霊的創立者ともいうべき神の僕マキシミリアノ・コルベ師の理想を実現いたすためにも、この雑誌の刊行の計画はずっと以前から私どもの心の中にありましたが、聖旨の時がまいりまして、マキシミリアノ・コルベ師の昇天二十一年忌を期しまして発刊の運びとなりましたことを、先ずけがれなき聖母に熱く感謝申し上げます。

「神は愛なり」と申します。

神はその無限の愛をもって、先ず人間を創造し、全宇宙とそこにある凡ての物を人間のために創り給うたのであります。故に人間は神の愛によって存在を与えられ、生かされております。然し人間は神の愛を悟らず、かえってこれに背いて罪を犯し自らを不幸な者となした許りでなく、この世全体を不幸な状態に落とし入れたのであります。

人間に背かれながらも神はなおその限りなき愛をもって、この不幸な状態から私たちをお救い下さるために、私たち人間の姿をとり給うてこの世に下り給うたのであります。この御方が救世主キリスト様であります。神にして人なるキリスト様は、私たちに真の愛とは何であるか、真の幸福とは何であるかを、そのお教えと活きた模範をもってはっきりと示して下さったのでありますが、悲しいことに私たちは、それを知らず、それを悟らず、偽りの愛、にせものの愛、或は愛の影法師、映像を求めて生きているのではないでしょうか。この世のすべての悲惨、混乱、間違いはここから生じております。愛しつゝも、何か満ち足りない気持が人間の心にあるのもこのためであります。

全人類が真の愛を知り、これに立ち帰る時、始めてこの世に真の平和と幸福が訪れます。このことが達成されない限り如何に科学が発達しようと決してこの世に真の幸福は訪れません。私たち一人一人が真の愛に生きるように努める時、私たち自身の上に、私たちの家庭の上に私たちの社会、私たちの国の上に、そして全世界の上に真の幸福が訪れます。現今

貞潔は女性より

岩清水　玲子

「清らけく咲く百合の花よ、いとかぐわしきばらの花よ……」と、聖母マリア様を讃える聖歌があります。真白いひときわ大きく咲いた百合の一輪を手にして、その美しさに感銘を受けない人があるでしょうか。聖母の貞潔と称れるばかりの種々の聖徳を、そのように美しい花々に例えてあるのですが、この純白の百合の花から、私たちは貞潔について考えさせられるのであります。

女性は貞潔をどのように取り扱うべきでしょうか。それは幼年少女を含む未婚者と結婚者とに分けられた身分に応じて、良心に何のやましさもなく、神様の御前に自分の肉身についての使命を全うすることでありましょう。特に未婚者は、ふくらんだばかりの蕾が吹きまくる早春の風に備えて堅いからをつけているように、特別の注意と配慮が必要なのではないのでしょうか。

一体神様は御創造の始めより、女性を男性の助け手となさいました。女性が社会の出来事の善悪両面の陰に立ち廻る事実は、このためであります。多くの女性は神様の御祝福のうちに慎しみ深いしとやかさを身につけておりますので、貞潔の徳に於ては、落着きをもって男性のそれに勝るべきものでありましょう。健全な心の持ち主の女性ならば、貞潔の徳の全人格にもたらす有益な美しさを、否定することは出来ないではないでしょうか。ところが、今日の女性の服装態度はどうでしょうか。そのいかがわしさは、性的開放の危険な刺激を作り出しているという説もあるほどです。しかし、又、私たちは多くの若い男性が「誘惑の手を静かに拒絶する若い女性を心から尊敬する」と言ったことも聞いています。このように、女性は世間のつまずきとなるか、反対に男性の貞潔の保護者となっているということが解るのでありますが、世間の女性が、こぞってこの貞潔の徳を目指したならば、社会はすべての悪より救い出され、明るく住みよいものとなり、又それは神様の御祝福を豊かに賜わるものとなるでありましょう。

「花のいのち」として日本の昔から、やさしく美しい女性を花に例えていた私たちは、今、すべての女性の代表として、処女にして母なるいと潔き聖母マリア様を讃美するのに花々をもってしているのですが、白百合の一輪を貞潔の徳になぞらえることは、何と素晴らしいことではありませんか。

愛から愛へ

川口　道子

最近私は愛に対する考え方が、大きく百八十度回転していることに気付きました。それはカトリックに改宗して、私たちに対する神の愛が解ったために与えられた大きな変化でとても嬉しいことなのです。以前の私は、自分を中心にした愛を確保するのに一生懸命でそのためには、姉妹や友人の心を傷つける言葉、行いも、あえてして思りました。他人に親切、愛を示す事も自分の気のむくままで、もし嫌だと思うと知らない顔をして、相手を喜ばせるどころではありませんでした。

しかし、キリスト様が身をもって示されたいこと、そして総ての人々を、特に精神的、肉体的、物質的に苦しみ悩んでいる者を特別に愛し、この人達の幸福の為に力を尽さねばならないと思うようになりました。

「私があなたたちを愛した様にあなたたちが互いに愛し合うこと、これが私の掟である。」

「友人の為に命を与える以上の大きな愛はない。」（ヨハネ聖福音15の12―13）とキリスト様は申されます。

私の特に尊敬する神の僕マキシミリアノ・マリア・コルベ神父様は、捕虜収容所に於いて死刑を宣告されたある囚人の身代りとなりその生命を捧げられました。カトリックの信仰を得てから始めて真の愛はどんなものであるかを教えられ、真の愛に生きた人たちの模範を知って、他人の幸福のためには自分を犠牲にして命をさゝげるほど、惜しまぬ愛の実行者になりたいと望み、このお恵みを祈るようになりました。このようにして神の愛に照らされて私の愛はまだまだ不充分なものでありますが、以前の自己中心のものから次第に相手の為、自分自身を与え尽くすまでになりたいという、百八十度の転回を見るようになったのであります。

国際文化会館にて

みさかえの園の建物

精神薄弱児施設「みさかえの園」

一年の歩み

シスター　今　西

聖母の騎士修道女会発行の雑誌「愛」の創刊に当り精薄児施設「みさかえの園」設置に御協力、御援助を頂きました御恩ある多くの方々に、その後の御報告と一年間過して参りました感想を記させて頂きたいと思います。

創設当初はおあずかりした尊い三千の生命を前に、おそれと責任感の中に夢中で一日一日を過して参りました。着更えのできない子、顔を洗う事、歯ブラシを使う事のできない子が多く、口に含ませた水は歯みがき粉と一緒に飲んでしまいます。雑巾のしぼり方、箒の使い方は殆ど全員できませんでした。この子たちは何も出来ない子だと思い込まれていたのか、或は不憫さから余り大事にされすぎていたのかも知れません。食堂に入ればお箸が持てなくて手掴みで食べる子供、あたり一面食べちらし一寸目を離すと足のふみ場もない位です。食事中あちらこちらのテーブルではお汁がひっくり返り、この中には、一口一口スプーンで口の中に入れて上げなければならない子供もおります。次には夜尿癖の子供、自立不能の子供、昼夜の別なく失敗する子供たちの指導と世話に苦労致しました。保母達は就寝後も二時間毎に子供を起してトイレットに連れていきます。それでも毎朝一抱え程

ブランコの上で撮りましょう

紙を使ってうれしいな

の洗濯物ができているので、こんなに大きな年をしていてと思わず溜息が出そうな時、「精薄児はどんなに年のいった子供でも、二つか三つの幼児に教える気持で取り扱う事ですね」とおっしゃった、ある先生の言葉を思い出して気をとり直します。更に私共を力強く導く言葉は「汝らがわがこのいと小さき兄弟の一人に為したる処は即ち事毎に我になしし なり」とのキリスト様の聖言葉であります。この子供たちの一人びとりの中にキリスト様がおられるのです。どうして粗末に取り扱えましょう。キリスト様に対すると同じく真心こめて愛しお世話すべきでありましょう。このようにして私どもの拙い指導も少しづつ報われて、今では殆ど着衣ができるようになり、朝夕歯も磨いております。受持区域の掃除もできます。大きい子は小さい子の面倒までみて上げます。呼んでも返事もしなかった子供が「ハイ！、先生！」と事務所や炊事場までのお使いができるようになり、更に「先生、お手伝いしましょうか」と申し出る子供さえおります。因みに預った子供の知能の状態は次の表の如くであります。

次に学習指導は三つの組分けをして行っておりますが、始めは誰れ一人時計を見る事ができなかったのですが、四・五人の子供がやっとそれを覚え、一日に何回となく大きな柱時計の前に来て「先生、今十時二十分でしょう」とか「今十一時五分前？」等と嬉しそうに声をかけて行きます。こんな事がありました。算数の時間に先生から「(3＋8)は幾つですか」と聞かれた時、しばらく考えていましたが、十六才のある子供は急に両脚を机の上にのせ始めたのです。そして両手の指と両足の指を一つ二つと数え出しました。笑いたくとも笑い得ない切実なものがありました。

子供達は音楽に大変興味を持っています。今年五月の児童文化祭には、国際文化会館の舞台に立ち、リズムと遊戯を御披露しました。保母や先生方から教えられた通りに憶え込もうと涙を流し乍ら努力するいじらしさ！私達が逆に教えられ反省させられる事が度々あります。

分類	知能指数			計
	測定不能	男	女	
白痴			2	2
痴鈍	20～49	4	11	15
魯鈍	50～79	2	8	10
不明			3	3
合計		6	24	30

残暑御見舞申し上げます

・本日愛誌創刊号をお届け申上げます。愛誌は女性の間に愛と貞潔をひろめる目的で発行いたしてまいります。御覧の通り貧しいものでございますが頁数も部数も，だんだんと増して充実させていきたいと思っております。どうかこのための御協力をお願い申し上げます。

・本号は7，8月号として，次号は9，10月号として出します。

・誌代はお志の御寄付でございます。

・一応いろいろの手続上誌代として下のようにさせていただきますが，経済的に困難な方にはよろこんで，無料でお送り申し上げますのでどうぞ御遠慮なくお申し込み下さいませ。

定価
1部　10円
1年分　60円（送料共）
10部以上1割引

昭和37年8月10日　印刷
昭和37年8月14日　発行

編集兼発行人　中山和子
発行所　長崎県北高・小長井
愛社
電話　小長井111番
振替　長崎・7102番
印刷所　同文印刷株式会社

長崎大司教出版認可

クリスマスの劇も

一生懸命にお勉強

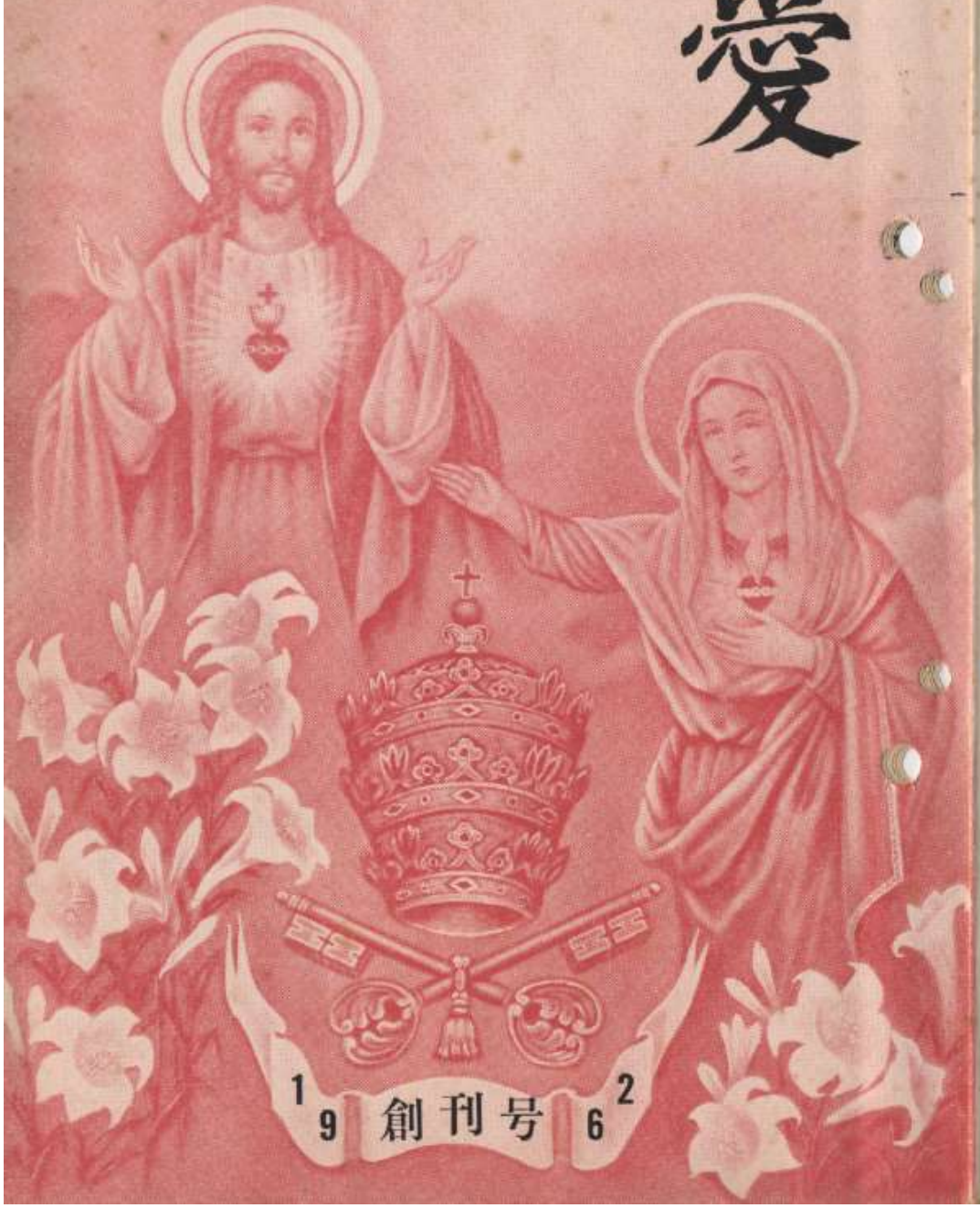
ある子供が一年間かかって、やっと五つまでの加減算ができるようになった時、私共の喜びは大きいものでした。三月の桃の節句が来ました時、飾るおひな様がありません。長崎市のデパートや玩具屋を何軒も廻りましたが、万を越える大金には手が出ません。恰度施設長会議に上京された園長の骨折りで、ある篤志の方から何万円もするようなおひな様のセットを寄贈して頂いた時の私達保母の喜びは子供達以上でありました。一ケ月遅れて四月三日にこの立派なおひな様を飾って内輪のお客様を招待し、白酒や雛菓子なども一緒に頂き、楽しい一日でした。五月は端午の節句です。これも園の予算を考え合わせた保母は、大きな紙で手作りの真鯉、緋鯉を作りました。夜各部屋や廊下、食堂などの壁飾りを一斉に手製の端午の節句の飾りに取り替えます。朝目覚めた時の男の子達の嬉しい驚き！指導員、保母の手を引っぱって歩き廻るのです。子供たちの歓声の中に鯉は屋根高く揚げられ、保母達は昨夜の徹夜の飾りの疲れも忘れてお互いに「よかったわね」とささやき合うのでした。子供たちは、明るく元気一杯です。ブランコやすべり台で嬉々と戯れる子供たちを見て「ここは全く天国ですね」と申された方もありました。

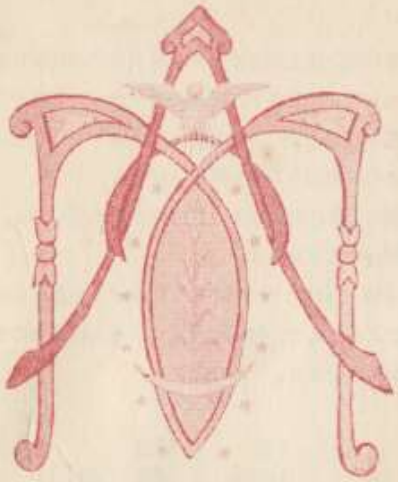
現在「みさかえの園」は三十名定員でありますが、更に三十名の増員を計画致し、建築工事に取りかかっております。完成は九月中の見込みであります。建築は延九十八坪、費金は共同募金から三十七年度のお年玉寄附金一七四万円の配分を受け、社会事業振興会から四百万円の借入れが決定しています。あと七〇万円余りは他からの寄附金をもっての予算であります。私共にとりましては、経済面では大きな負債を担いながらの事業でありますので、御好意の方々の御協力と御援助を心からお願い申し上げます。

子供たちの心は何の虚飾もなく単純で美しい。この子供たちを社会の為にも何かの御役に立つように、よりよく育て導いていかねばならぬ使命と責任を痛感しつゝ、精薄児施設みさかえの園が聖母の御保護の下に、益々神の御栄えの花園になっていきますよう、より一層努力いたしたいと思います。やがて秋には六十の清い魂が、この愛の花園に可愛いゝ花を開くことでしょう。明るい歌声が今もきこえてまいります。

可愛いゝお手々を組み合わせ
こうしてお祈りいたしましょう。
神さまよい子にして下さい。

愛





白百合かほり、紅のばら咲きこぼる、
この花苑に、
微風は今日も愛の歌をのせて訪れん。
あゝ、忘れられし幼子ら、
貧しき人々よ！
うちしほれし花びらも哀れなる
多くの疲れし魂の群よ！
いざ来れ！
この花苑に
くめど尽きせぬ真清水あり。

十　主の平安！　けがれなき聖母の御子イエスは賛美せられさせ給え

この度　けがれなき聖母のお導きの下　不肖の身をも省みません　聖会の発展のために微力をお捧げいたしたく〝愛〟誌を出版いたすこととなりました。大変まずしい創刊号でございますが賜暇させていただきますので御覧下さいませ。

この雑誌の目的趣旨につきましては　創刊の言葉の中に詳しく述べさせていただいておりますが　特に女性を対象といたし　女性の間に真の愛と貞潔を広めることを目的といたしております。

幸に敬愛申上げます皆様の御支援を参ういたしまして　一人でも多くの読者が与えられ　真の愛と貞潔の本源たるイエズス・キリストが賛美せらるるにいたりますならば　これにすぎる喜びはございません。

何卒　よろしくお願い申し上げます。

なお　未熟な私どもでございますので御気づきの点を何かと御教えいただけますならば　誠に幸に存じます。

聖母の騎士修道女会　会長
シスター　フランシスカ　中山